



能村研三推薦・今月の30句

忘れ物とりにアマリリスが真つ赤	辻 美奈子
緑蔭の音叉のやうに渉る風	菊地 光子
鰐口を打てば一山朴匂ふ	大畑 善昭
座せぬ椅子の並ぶ卵の花腐しかな	千田 百里
蚕豆や型にはまらず梓にゐる	塙 誠一郎
決断の甘さを突かれ心太	吉田 政江
草笛を言葉のやうに吹きゐたる	大川ゆかり
薫風や髪なびかせて少女期へ	栗原 公子
青鬼灯指に残りし地のかをり	甲州 千草
浮き腰にやうやく日暮れ梨花授粉	大沢美智子
ハーレーの一团茅花流しかな	町山 公孝
少年の大きな手の平青林檎	福島 茂
青梅雨の底に燭継ぐ信徒村	柴田 近江
畏るべき定型にして五月富士	菊川 俊朗
アイスティーずずと言はせ恋終る	石田 静
正論に透ける青さや今年竹	道端 齊
赤ん坊に胡坐とふ椅子夕端居	川高郷之助
さつと葉をむかれて目覚む柏餅	中村 重幸
萍や昭和が変へし川の貌	森村 江風
一螢火うるしの闇へ曳光す	石崎 和夫
曖昧な老いの実感草矢打つ	荒井千瑛子
父の日の煙草と大きな掌の記憶	富川 明子
東京は坂多き町大夕焼	栗坪 和子
絞り染の糸解くやうに茄子の花	平松うさぎ
卵の花腐し背を預くる齒科の椅子	七田 文子
追分は標の如く朴若葉	関 妙子
人は詠み鳥は唄ふや柿若葉	坂下 成紘
稜線に雲立ちあがる芒種かな	根本 世津
雨音の勇みをつけて夏来る	石橋みどり
夏暁の竹刀打ち込む音清し	澤田 英紀

沖 の 水 脈

